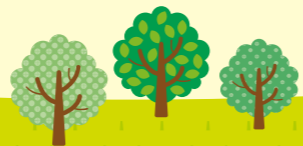


農業掲示板 12月



丹波栗

今年の反省・新植のポイント

・本年を振り返って

昨年末から3月までは暖冬傾向で、気温が高く推移しました。4月に入ってから気温が平年並みか低くなり、5月以降の天候は安定しました。梅雨明けが遅れ、長期間にわたり日照不足で、降水量も多かったです。梅雨明け後は晴天が続く、猛暑に加えて、1ヶ月間ほとんど降雨がなく、干ばつ気味になり、台風の上陸はありませんでしたが、農産物にとって厳しい気象状況となりました。

このような天候の下、栗の生育状況は、発芽時期、開花時期ともにおおむね平年並みでした。凍害はあまり見られませんでした。開花量が非常に多く、生理落果も

少なかったため、着果量が非常に多いま肥大型を迎えました。加えて8月の水不足により、果実肥大が悪く、全般的に小粒傾向でしたが、9月に入ってから降雨を受けて、裂果も見られました。収穫時期も昨年同様遅れ気味でした。病害虫の被害は比較的少なかったようです。

以上のことから、今年の丹波篠山市の栗の作柄は、着果量の多さから、小粒傾向だったものの前年より集荷量は多くなりました。

・新植のポイント

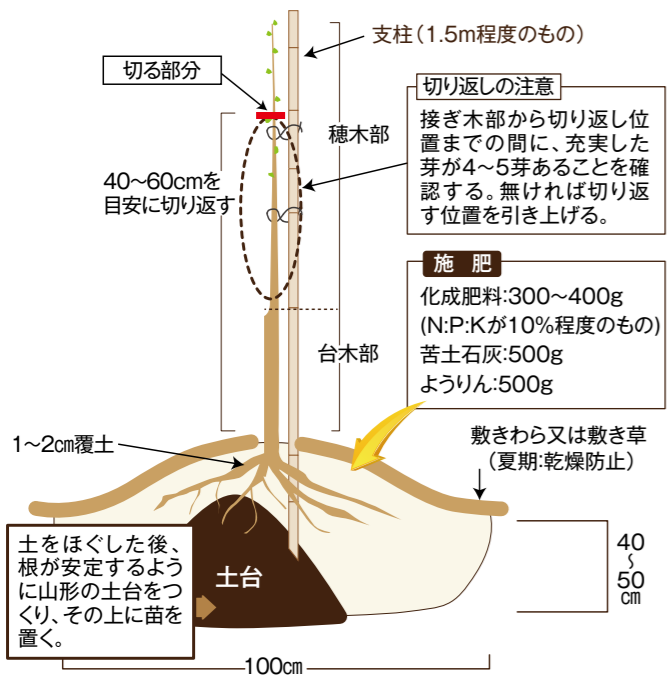
<ほ場の準備>

- ①予定地の草刈り(木の株等は出来るだけ除いておきます)
- ②土壌改良材の散布(植え付け前には土壌改良をしましょう)

例:資材→ようりん、完熟堆肥(10アール当たり2トン)、籾殻等

<苗木の植え付け>

- ①苗木の準備
収穫労力の分散及び受粉効率を高めるため2品種以上を導入し、混植します。
- ②植え付け時期
植え付けは、秋植え、春植えがあります。一般には秋植えの方が植え傷みは少ないです。
秋植え:11月下旬~12月中旬
春植え:3月上中旬(凍結する恐れのある日は避けます)
- ③植え付け材料と資材
土壌改良材、肥料等は塊にならないように均一に散布し、直接苗木の根に触れないようにします(散布量下図参照)。
- ④植え付け時の留意点
・しっかりと植え穴を掘り返し、根が素直に伸びるように四方に伸ばしておき、土はほぐしておきます。
・深植えにならないようにします(接ぎ木部が必ず地表面に出るようにします)。
・植え付け前には決して根を乾燥させないようにします。
- ⑤植え付け間隔と植え付け様式
4m×4m(10a当たり62本の正方形植え)
間伐後は4m×8mとする(10a当たり31本)

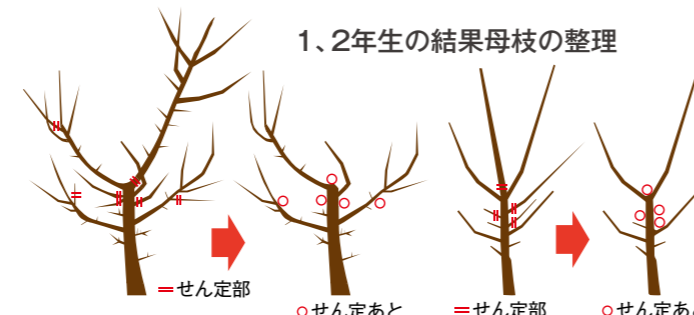


・せん定

せん定の目的は、①枝(花芽)の数を減らして大きな実を作ること。②日当たりを良くしておいしい実をつくること。③風通しを良くして病害虫の発生を少なくすることです。寒い時期ですが、くりの栽培で一番大切な作業になりますので、せん定をしましょう。

<せん定の基本>

- ①隣の樹と近すぎませんか
隣同士の樹が混み合っていると日当たりが悪くなり、枝が枯れやすくなります。樹の上部の枝の間隔が2m以上、下枝では1m以上の空間(葉が出てからも隣同士の樹の枝がふれないのが理想です)をつくるように、樹を切り縮めるか間伐をするようにします。
- ②樹が高くなりすぎないように
樹高が、3.5mより高い枝は、すべて間引きます。残った枝は弱く見えますが、高い枝を切ることで日当たりが良くなり、来年は良い結果枝になります。強い枝を残そうとすると、どんどん背が高くなってしまいます。思いきって間引きましょう。
- ③太い枝(主幹・主枝・亜主枝)は整理できていますか
7年生位までは、主幹(真上に伸びる枝)1本と主枝(主幹から横に伸びる太い枝)4本の計5本の太い枝が必要です。7~8年目位から、主幹を切り下げます。また、主枝の数も2~3本に減らします。亜主枝(主枝から出ている太い枝)も主枝1本につき1~3本に減らします。
- ④結果母枝(実の成る枝)の本数は制限します
仕上げに、結果母枝の間引きを行います。1㎡当りに残す結果母枝の数は丹沢、筑波などの品種では5~7本、銀寄では6~8本程度とします。弱小枝は樹体への栄養を補給する役割があるため、邪魔にならない枝は残します。



<施肥>

冬季は、施肥などの土壌管理の時期です。下表が施肥の基準量ですが、樹勢の弱い樹は多めに、樹勢の強い樹は少なめに施用しましょう。また、幼木は1~2月に元肥を施用すると凍害の被害にあいやすくなるので、3月下旬~4月上旬に施用しましょう。

	成分(%)	樹齢別施肥量						
		チッソ	リン酸	カリ	2~3年生	4~6年生	7~10年生	10年生以上
元肥(12月~3月)	完熟堆肥	-	-	-	2t	2t	2t	2t
	化成肥料444	14	14	14	20kg	10kg	20kg	20kg
	発酵鶏糞	3.5	7.3	3.9	-	30kg	50kg	100kg
実肥(6月下旬)	NK化成2号	16	0	16	-	10kg	15kg	20kg
礼肥(10月上旬)	化成肥料444	14	14	14	-	10kg	20kg	20kg

※発酵鶏糞の成分は、畜産環境整備機構のデータ参照

農業掲示板 12月の農作業



黒大豆

JA丹波ささやま独自の規格



JA丹波ささやまでは、「丹波篠山」の知名度を活かしたブランド力と特産物の販売の強化により、農家手取向上につながる有利販売を実現するため独自の規格を定めています。是非、全量出荷をお願いいたします。

1.選別規格

JA丹波ささやまの独自の規格を次の通り定める。

- 1)産地…丹波ささやま農業協同組合の組合員が兵庫県丹波篠山市で栽培し収穫した丹波黒大豆とします。
- 2)指定系統…「兵系黒3号」「川北黒」「波部黒」の3系統の種子から生産した丹波黒大豆とします。
- 3)栽培基準…丹波ささやま農業協同組合及び全農兵庫県本部作成の令和2年度栽培ごよみを基準とします。
- 4)等級…等級L以上かつ品位秀以上のみ「丹波篠山黒豆」の名称で販売します。
- 5)調整・選別方法…必ず、裂皮・しわ豆・くず豆・被害粒・異物・さや等をきれいに取り除き出荷します。

2.集荷時期(集荷時期により精算単価が異なります)

集荷受付は、各営農経済支店の営業時間内とし指定場所への持込を原則とします。

第7期以降についても共販出荷契約者のみ随時集荷を行います。

※休日の集荷につきましては、12月6日(日)、12月13日(日)の2日間、午前9時から正午まで各営農経済支店で受付を行います。

第1期	~12月1日(火)までの平日
第2期	12月2日(水)~12月4日(金)
第3期	12月6日(日)~12月8日(火)
第4期	12月9日(水)~12月11日(金)
第5期	12月13日(日)~12月15日(火)
第6期	12月16日(水)~12月29日(火)までの平日
第7期	1月4日(月)~1月8日(金)

3.集荷及び検査方法

- 1)生産者は選別調製後、出荷袋(古紙袋)に**正味入数量+欠減補填分1%**を入れ、所定の出荷受検申込用紙に必要事項を記入の上、その用紙を出荷袋毎に貼り付け出荷します。(100g単位)
- 2)集荷・検査
集荷時に水分と品位を検品し、一生産者一出荷単位とし、その数量に応じた口数で約500gのサンプルを取り、規格に基づき厳正に区分して荷受書を発行します。

- ①サンプル口数 1単位 100kg未満 1口(数ヶ所より)
- ②サンプル口数 1単位 100kg以上 2口(数ヶ所より)
- ③集荷全量の共撰は、選粒場において統一かつ一括に行います。統一検査による格付をし、成績に応じて品位補正を行います。(特に裂皮、キズ豆、虫害等は厳しく検査します。)
- ④水分は出荷時に各営農経済支店にて測定します。裂皮の恐れのある過乾燥については別扱いにし、品位格付をします。また、19.1%以上の水分過多のものについては荷受をいたしませんので再調製をお願いします。
(本年度も水分補正はいたしません。)

今後の

24時間OK / 農業技術テレホンサービス 電話:079-556-3384

11月20日▶12月3日 黒大豆の脱粒と手選別作業のひとつ

12月4日▶12月17日 山の芋の美味しい食べ方

12月18日▶12月31日 丹波栗の剪定と冬場の管理

丹波篠山農産物相談・研究センター 開所日時:月・水・金の週3日 10:00~12:00 (ただし祝日・年末年始を除く)